

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館報

RENDEZVOUS

(ランデブー)

News (2023 年前期の取り組み)

◇新しいエリアが誕生！3階閲覧室のレイアウトを変更しました！◇



Before



After

夏休みの書庫整理期間を利用し、3階閲覧室の一部をレイアウト変更しました。低書架とソファ席を置き、学科の教育・研究に関連する内容の「漫画」(貸出不可)を新たに置く予定です。これからも利用者の皆さんの要望を反映し、より快適に利用できる図書館を目指します。図書館を「居場所」としてぜひ、ご活用ください！

◇ご存じ？ライブDVDが見られるんです！◇

4月～5月(ジャンル別)、7月(アーティスト別)の2回にかけて視聴覚資料の購入希望アンケートを実施しました。多くの方からの回答があり、大変参考になりました。その結果、アーティスト別では、「嵐」、「King&Prince」、「乃木坂46」、「Perfume」が上位を占めたため、今回受け入れが決定しました。これ以外にも、たくさんの視聴覚資料がありますよ。

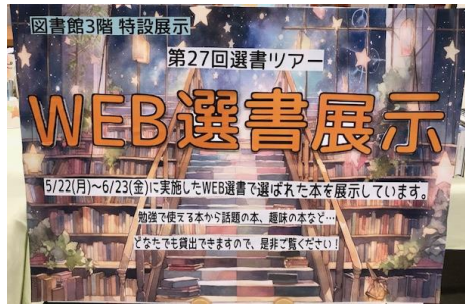
授業の空き時間や気分転換したい時、ライブ映像を見て盛り上がりませんか？1曲から視聴でき、お友達と一緒に見ることもできます(2人まで)。さあ、3号館2階AVブースコーナーまで⇒⇒⇒



4～5月に3階雑誌架にて、雑誌のアンケートも実施しました。今後の雑誌選定の参考とさせていただきます。

◇新しい本との出会いを！第27回選書ツアー (WEB選書) の実施◇

夏休み期間中の実習や卒論作成に活用していただけるよう、今年度は例年よりも早い時期に実施しました。5月22日(月)～6月23日(金)の選書期間の間で、学生・教職員あわせて25名が参加し、約260冊の選書がありました！



【告知】2024年度の開催について(内容については来年春以降に周知します！)

皆さんが読みたい本を自由に選ぶことのできる貴重な機会です！来年度も開催予定ですので、参加してみませんか？詳細は、図書館HPや掲示板等でお知らせします。

◇特設展示コーナーに学生アルバイトによるおすすめ本を展示◇

2023年4月から働く、10名の学生アルバイトの皆さんが「夏といえば！」をテーマに小説や絵本等を選書し、ポップも作成しました。初めて取り組む仕事でしたが、これまでとは一味違ったラインナップとなり、夏にふさわしい本がたくさん集まりました。今後も学生の皆さんの目線で、企画イベントを開催していきますのでご期待ください！



◇本学所蔵の「古典籍」が国文学研究資料館のデータベースで公開◇

貴重書庫所蔵の「古典籍(こてんせき) (近世までに作られた書物のこと)244点(タイトル)の画像が電子化され、国文学研究資料館の「国書データベース」で公開されました。

下記のQRコードからご覧いただけますので、ぜひご活用ください。

※国文学研究資料館が取り組む「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に参加し、対象となる本学所蔵資料が公開されたものです。



伊勢物語

QRコードこちら



数学、論理・言葉

園田学園女子大学人間教育学部准教授 石井 稔

「なぜ数学を学ばないといけないのか」という問いは、数学教師にとって各自の数学観・数学教育観を試される厳しい問いと言えるだろう。

小学校の「算数」を学ぶ必要性については異を唱える人はいない。しかし、中・高等学校の「数学」についてはどうであろうか。曾野綾子氏の「私は2次方程式もろくにできないけれども、65歳になる今日まで全然不自由しなかった。」という発言はマスコミで大きく取り上げられた。この発言の影響もあってか1998年7月の中央教育審議会答申で、2次方程式の解の公式が中学数学から姿を消したことは、数学教師にとっては忘れられない苦い記憶である。似たような言説は学校数学に対する揶揄的な批判としてよく耳にする。

では、中・高等学校で数学を学ぶ意義とは何なのか。将来、数学を道具として必要とする分野に進む者だけでなく、すべての人にとっても数学は算数と同様のリテラシーであると私は考えている。それは覚えた数学的知識や公式、問題を解く能力などではなく、それらを忘れた後に残っている数学的概念の「意味」と思考の「型」、そして「論理性」ではないかと考えている。

三角形を例にとると、小学校2年生で三角形の定義（三角形とはどんな形か）を学び、次いで、様々な三角形（正三角形、二等辺三角形、直角三角形等）、三角形の面積、三角形の決定条件と三角形の合同などを学んでいく。中学校では三角形の合同と相似の条件と証明を、そして高等学校では初等幾何としての三角形の性質（重心・内心等）や三角比、正弦定理、余弦定理等を学んでいく。

生徒はこれらの内容をその時々で別個のものとして学び、問題を解いていく。しかし、これらを別個のものとするのではなく統一的に俯瞰すると新たな意味が見えてくる。三角形の決定条件は「形や大きさが決まる要素」であり、例えば、2つの辺の長さとその間の角の大きさ（二辺夾角）が決まれば誰でも同じ三角形がかける。それゆえにこの条件は2つの三角形が合同であるための条件にもなっている。更に、三角形の形や大きさが決まるのだから、残る1辺の長さや2つの角の大きさも決まるわけで、正弦定理や余弦定理はこの関係を示すものでもあるのだ。余弦定理の練習問題の指導の際にこの点を指摘すると生徒たちの三角関数に対する意識も変わるようである。

次に、私が数学的だと感じている思考の「型」についていくつか例を示そう。

第一に、数学では「三角形ABCがあり、・・・」「実数xについて、・・・」のように議論を始める前に議論の及ぶ範囲を設定する。第二に、「 $a < 0$ のとき、 $a = 0$ のとき、 $0 < a$ のとき」のように必要に応じて場合分けをして考える。第三に、一つ一つの用語に厳密な定義があり、曖昧な要素を許容しない。

これらは数学を学ぶ上で必須の要素であるが、同時に、日常生活においても厳密な議論をするためには必要なことでもある。

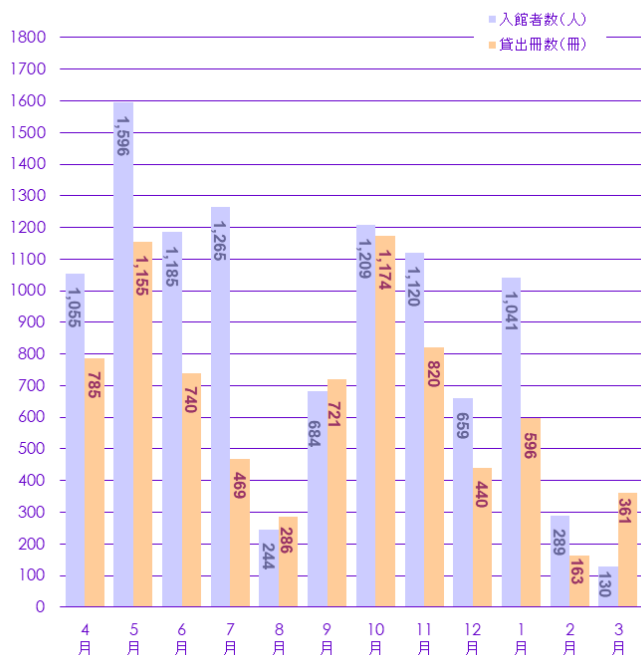
最後の「論理」についてであるが、数学の論証は数学的内容に関する部分を捨象すると記号論理学に行きつくことになる。具体的には、否定（ $\neg P$ ）、かつ（ $A \wedge B$ ）とまたは（ $A \vee B$ ）、すべて（ $\forall x$ ）とある（ $\exists x$ ）、命題の真偽、対偶、逆、裏や論理式などである。

高校までの数学では、記号論理的な記述は生徒にとって、また、教師にとってもハードルが高いため、日常の日本語を「数学的」に運用して記述している。

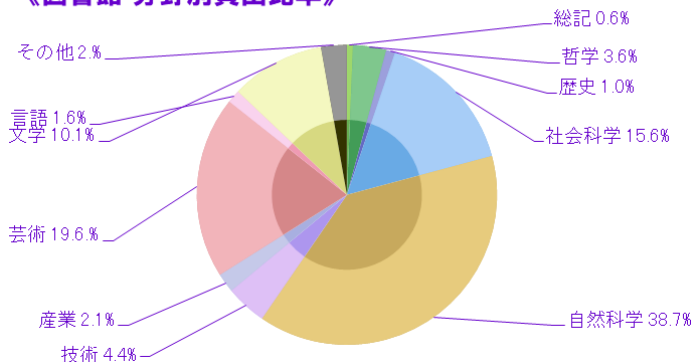
このことを逆に捉えると、数学的（＝論理的）視点から日本語を捉え直すと、論理的により明晰な文章を書くための、あるいは、与えられた論理的文章をより正確に読み取るためのトレーニングが出来るのではないか。そのような趣旨の教養科目を設置している大学もあるので、具体的な実践ができないかと考えている次第である。

Library Data (2022年度 利用統計)

《図書館 月別入館者数/貸出冊数》



《図書館 分野別貸出比率》



《貸出状況》 近松研究所含む () 内 2021年度

利用者区分	貸出冊数	利用者数
学 生	5,775 冊 (5,574)	9,461 人 (7,515)
教 職 員	1,842 冊 (1,926)	846 人 (748)
その他 (学外者を除く)	93 冊 (81)	170 人 (72)
合 計	7,710 冊 (7,581)	10,477 人 (8,335)

《受入状況》 近松研究所含む () 内 2021年度

資料区分	受 入 数	累 計
図 書	和 書 2,277 冊 (2,867)	267,176 冊 (265,753)
	洋 書 16 冊 (29)	41,145 冊 (41,138)
	合 計	2,293 冊 (2,896)
逐次刊行物	699 タイトル (221)	937 タイトル (883)
視聴覚資料	112 点 (76)	15,705 点 (15,625)

《相互協力利用状況》 () 内 2021年度

利用区分	受 付	依 頼
文献複写	179 件 (268)	113 件 (67)
図書貸借	0 件 (0)	5 件 (1)
閲 覧	0 件 (0)	0 件 (0)
合 計	179 件 (268)	118 件 (68)

《AVブースコーナー 視聴数》 35 件 《レファレンス (文献所在調査・利用指導など)》 107 件

編集後記

今年度より地域の方々の利用も再開し、図書館は本来の姿に戻りつつあります。館内では、書架のレイアウト変更や季節に応じた企画展示の実施、AVブースコーナーに音楽ライブDVDを導入する等、刷新に取り組んでいます。何かお気づきのことがありましたら、遠慮なく図書館までご連絡ください。(佐藤)

RENDEZVOUS 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館報 No.50

【発行日】 令和5年9月30日 発行所 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館
〒661-8520 尼崎市南塚口町7丁目29-1 Tel: 06-6429-9931 Fax: 06-6429-2822
https://www-std01.ufinity.jp/sonoda_library/ E-mail: lib@sonoda-u.ac.jp

誌名「RENDEZVOUS」の由来

1998年3月発行の25号から「図書館ニュース」を誌名変更。一谷宣宏前理事長の命名によるもので、「図書館は、様々な知との出逢いの場であり、本学を離れて後もその知が必要となきには出逢いを求めて来ることができる」との意味を持っている。